

発川建土第 329 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

川南町長 内野宮 正英



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（報告）

国土交通省におかれましては、地方公共団体における道路事業について格別のご配慮を賜り、深く感謝申し上げます。

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記の件につきましては、別紙のとおり関係書類を添えて報告いたします。よろしくお取り計らいくださるようお願い申し上げます。

（文書取扱 建設課）

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

宮崎県川南町

(要望・提案)

- ・ 都市部のように公共交通機関が十分ではない地方部の住民においては、自家用車による移動手段が主流であり、地方部において道路は、住民の生活を支える最も重要な社会資本ともいえ均衡ある国土形成、活力ある地域づくりに欠くことのできない基本基盤であります。このようなことから、今後様々な事業計画を策定するにあたり、地方道路整備に関しては更なる財源確保を望みます。
- ・ 本町における道路構造物は、昭和30年代から昭和40年代に構築されたものが多く、完成から50年近くを経た現在では、計画的な修繕改修政策が必要であり、近い将来一挙に道路情勢・財政情勢が崩壊しないような事業の立案・策定を望みます。

○ 現状

- ・ 本町においては、車が移動手段の主流となっており、物流・流通の主な手段でもある。高速道を含め、道路のネットワーク化は物流・流通の高速化を進める上で必要であるが、未だ十分なネットワーク化が構築されていない。
- ・ 東九州自動車道は現在整備中であるが、本町の主要幹線である国道10号線が片側2車線化しておらず、片側2車線化が進んでいる地域に比べ、物流等のタイムロス及び移動コストが割高になっている。
- ・ 本町の主要幹線道路についても計画的に道路橋梁の改築・改良を行っているが、十分とはいえず、住民生活に密着した道路は更に老朽化が進んでいるため、道路の維持管理面でコストが増大してきている。
- ・ 本町においても高齢化社会が進んでおり、主流となる車の移動手段以外に代替的な交通機関の構築が必要であり、現在、コミュニティバスを運行している。

○ 課題

- ・ 東九州自動車道は現在整備中であるが、物流等を含め根幹を成す道路であると同時に、均衡ある国土形成をなす上で必要不可欠であり、地方にとって重要な社会基盤のため、早期の完成を目指して取り組むべき課題である。
- ・ 国道10号線の片側2車線化は、交通の東九州自動車道への一極集中による慢性的な渋滞化を避ける上でも必要であると思われる、また、県内の主要都市を結ぶ道路であり、一番身近な道路として整備していく必要がある。
- ・ 道路橋梁の維持管理は継続的に行うものであり、左記にも述べたように老朽化が進んでおり、維持管理を計画的・重点的に行う事が今後は重要になってくるだけでなく、それに応じた財政確保が必要になってくる。
- ・ 高齢化社会を迎えるに当たり、高齢者が運転しやすい、あるいは安全に歩行等ができる道路構築にも配慮していく必要がある。また、コミュニティバスのランニングコストを踏まえ、今後の交通手段等を考えていく必要がある。

- ・ 物流輸送においての輸送道路が択一的とならず、経済性等、総合的な面から多様なルート選択ができるよう、また、都市部周辺の地域とも物流面等で競合できるような道路ネットワークの構築を目指す。
- ・ 誰もが安心・安全で通行できる利便性の良い道路ネットワークだけでなく、医療、買い物等広域的に共有できる物流、人のネットワークも構築し、活性力のある地域づくりを目指す。
- ・ 新規道路と維持管理していくべき道路のバランスを考え、移動手段としての道路だけではなく、広域的な中にも地域に密着した道路網を形成し、地域の発展・利便性に寄与できる道路づくりを目指す。
- ・ 来るべき高齢化社会に向けて、高齢者にも優しい道路構築だけでなく、地域に適した公共交通機関の発展、交通網の形成を目指し、地域住民が快適に生活できる地域づくりを目指す。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

宮崎県川南町

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価等	○その他
・地域に適した公共交通機関の形成	・コミュニティバスの運行	・地域生活に密着した独自の交通網を形成することにより、経済的で住民にとって利便性のよい交通手段の一つとして期待される。	